

ガーナでそろばんプロジェクト 92号(2021年4月19日)

★★ 数を理解してもらうには、、、試行錯誤は続きます。)

『誰一人取り残さない』を目標にしている算数の授業は、授業を行なえば行なった数だけ課題が生まれます。「数の仕組みを理解してもらう」ために作った数カードは絶対の自信作です。予め黒板に貼った数カードから指定された枚数を使い、大きい数、小さい数、近い数を作る。これは、日本の小学校3年生4年生でやる数の仕組みの指導方法を取り入れたものです。4年生の授業で、2,3,0,8の4枚のカードから3枚のカードを使い300に近い数を作る問題を出した時、280を自信満々に作り出した子ども、私が手助けをして283を出した子どもがいる中、0に注目してもらいました。0を使う事により、より300に近づくとヒントを出し、こちらも手助けをして302の数を作ってもらいました、283と302、どうしても283の方が300に近いと思ってしまう子どもがいるのです。前号で載せた写真の下段がその時のもので、それまで現地語で授業を席に着きながらサポートしてくれていた先生が前に出てきた瞬間でした。「マーティン?」時折先生が子どもに聞いています。マーティンは現地語の「わかりましたか?」です。子どもは「イエス」と返事をするけれど、いったい何人の子どもが理解しているのだろうと疑問に思っていました。そして、もっとより分かりやすく「近い数」を理解してもらうには?と考えたのが「数直線」です。数カードも数直線も絶対の自信作です。しかし、数直線は表を作りながらある懸念が生まれていました。数直線は「目盛りの理解」も必要になってくる事を。数直線の表を使った初めての授業は打ち砕かれました。目をキラキラ輝かせながら「トシコ、トシコ。」と手を挙げる子どもたち。もちろん全員が手を挙げるわけではなく、やはり顔からしても全く理解していない様子がわかる子どももいます。数直線の初めての授業という事もあり、手を挙げた子どもにも前に出てきてもらい、どこにその数字はあるのか指してもらっても、全く違うところを指

す子どもが多く、つい「ズツ」と言い驚いてしまいました。そんな私の姿を見ながら「トシコ、トシコ、No」と指して「ゴールは止みませんでした。間違っても学びの意欲は存分にあり「そろばん」と言葉の出し、そろばんをやりたい気持ちも存分に伝わってきます。Make5,make10の出題や5を基準にした9までの数に手の指を数え元気に答える子どもたちの眼差しに今後どのような方法で対応しようかと試行錯誤はまだ続きます。もちろん手を挙げないでいる子どもを取り残さないことを十分に考えて授業をしていきます。

報告 TOOSHIKO



協賛

トモエそろばん様

※前号でも紹介した現地の先生参加型授業